

旧第2通学区 高校の将来像に関する住民説明会 会議録（概要）

日時 令和元年（2019）7月30日 18:30～20:00

場所 中野市中央公民館

1 開 会

2 あいさつ

旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会副会長 池田 茂

3 説明会

(1) 少子化等地域を取り巻く現状認識

2区高等学校長会長宮原中野西高校校長から説明

(2) 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針

長野県教育委員会から説明

(3) 質 疑

Q. 県外の高校へ進学する生徒が多いと聞いているが、何を求めて進学したのか、現状を分析されていると思いますが、その分析を今度の改革にどう活かされているのでしょうか。

A. スポーツや様々な関係で県外への流出は多くあると思います。「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」においても、県外流出をなんとか食い止める大きな目的にも合致するのではないかと考えています。

Q. 「探究的な学び」の評価をどのように考えているのでしょうか。現役高校生の大学合格率の上昇や具体的な数値を用いて評価されるのでしょうか。

A. 「探究的な学び」というのは、例えば、自分たちで考え、発表するところが評価基準になりますので、客観的に評価し、評定に反映させていくことが大事だと思います。

大学入試でも、「探究的な学び」で育まれる考える力、発表する力などを、色々な形で大学側も評価しようとしていることから、進学実績にも好影響を与えるものと考えています。

Q. 統計値から今後の生徒数の減少がわかり、学校運営の維持と生徒の学習環境をより良くしていくために、高校が減ってしまうことは、仕方のないことかもしれませんが、現在の40人学級を学校運営の30人学級でシミュレーションすると数値的に変わってくるの

でしょうか。

A. 現在1クラス40人学級ですので、40人の学級で計算しています。

生活集団としては1クラス40人学級としていますが、各高校とも選択授業の講座を編成については、30人とか20人の学習集団での授業を行っていますので、ご理解いただければと思います。

Q. 通学区外や県外からも人を引き付ける魅力的な高校をつくること、また、夢と希望を持って、高校でこんな事を学びたいと志してくるどの生徒さんのためにも、質の高い学びのために、しっかりとしたカリキュラムを考案していただいて、ぜひとも地域をも強くできる高校に再編していただきたいと思います。

A. 「探究的な学び」、突き詰めれば一人ひとりの生徒をどのように育て、社会で通用する生きる力をつけていくことに尽きるかと思います。問題意識を持ちながら、教育の中身をより良くしていきたいと思っていますので、今後の課題とし受け止めたいと思います。

Q. 「探究的な学び」は、理想的で素晴らしいと思いますが、先生方に相当な力がないとできないと思っています。絵に描いた餅になってしまう部分もあるのではないのでしょうか。

A. 「探究的な学び」を実施するには、教育の質、教員の力量が試されます。今後、指導研修を行い充実させていきたいと思っています。

「探究的な学び」が絵に描いた餅にならないようにという要望ですが「探究的な学び」は、現状でも色々なことをやっています。例えば、文化祭は、探究的に色々考えながらディスカッションして作り上げていく、探究的だと思います。課題意識としては、今後、探究的なものを上手く活用しながら各学校の教育活動がその方向に向かっていくことが理想だと思います。

Q. 高校は、地域や市町村にとっても大事です。県教委ではどう考えているのでしょうか。

統合が必要となった時に、どういう学校が地域に必要なのか、協議会だけでなく、もっとより広く市民の声をきちんと聞いたうえで進めてほしいです。

A. 地域にとって高校はとても重要であると考えています。高校改革実施方針の前の「学びの改革 基本構想」の中で、「立地の特性を活かした高校づくり」とあり、都市部には都市部の、中山間地には中山間地の特徴を活かした学びが必要であるということを明記していますので、地域における高校の重要性は十分認識しています。これに基づいてこれからの高校づくりをしてきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。